

今村復興大臣ぶら下がり記者会見録

(平成29年1月29日(日) 1510～1520 於) 福島県白河市)

1. 発言要旨

昨日に引き続いて、今日は会津地方、そしてこの白河市と訪れてまいりました。大変有意義な一日だったというふうに思っております。

というのは、今日は最初、末廣酒造さんに行かせてもらいましたが、あそこに行くと単なる酒屋さんというよりも、やっぱり会津が持っているいろんな伝統とか歴史、そういったものをしっかり大事にしてあって、もうびっくりしたんですけれども、野口英世だとか徳川慶喜公の書だとか、あるいはもっとびっくりしたのは松平容保公の書ですね。その書の中に今村雅弘の雅の字があったんで、これはいいと思ったりしました。

そしてまた、御主人が非常に幅広くいろんなことをやってありましたし、もっとももっとこういった隠れた歴史的ないろんな財産とか伝統があると思いますから、そういったものをもっとしっかり掘り起こして、地元の人にはこれが当たり前だと思っているかもしれませんが、やっぱり我々から見るとすばらしいなと思うことがありますんで、是非頑張って、もっともっとアピールしてもらいたいと思いますし、いろんな意味でまた我々もこの地域の振興のために力を出して、少しでもお役に立ちたいというふうに思った次第です。

それから、下郷町で大内宿に行きましたけれども、うわさには聞いておりましたけれども、ちょうど雪もあって大変貴重な体験をすることができました。

これも同じく、やはり昔の宿場町ということで、何かタイムマシンに浸ったような感じがしてよかったし、そしてあそこのお店を守っている女性の方が、85歳の方だったんですけれども、本当にこうやって皆さんが来ていただいて有り難いと言われましたし、そこで生まれてここへ嫁さんに来て、もう85歳になって、今が一番幸せだと言ってありましたから、それはもう皆さんの御先祖様がこうやって大事に育てて、大事にしてくれた町だから今こうあるんですよと、御先祖様に感謝しなきゃねと言ったら、そうですねって言って、大変和やかな会話も出来ました。

そして、この二つに関連しますが、特にやっぱり東京からの交通アクセスを、これから道路もいろいろとトンネルが出来たりして、こっちから行くのも東北道から行っても便利になったみたいですが、あとはやっぱり鉄道が、東武鉄道が今度、直通といいますか、浅草から走らせるような計画もありますから。

ただ問題は、会津若松までドンと来られるようなことを考えれば、もっと便利になると思います。日光、鬼怒川を通して、そして会津若松と。そういったこともちょっといろいろ考えて、ＪＲ東日本にも相談してくれたらどうだということで、私も東武とＪＲ東日本にもちょっと話をしますから。

そして、ついでにと言ったら何ですけれども、あの只見線ですね。これは、私はもう是非残せとずっと言ってきたつもりです。非常にやっぱりこれも、いろんな四季折々の風光明媚なところもありますし、何と言っても、電源開発が日本の電力を首都圏に送るために造った、その資材を運ぶ鉄道なんだよね。ただ、そういったことの歴史的な背景も含めて、これは大変な財産なんだから、単にこれを輸送機関と、お客様が少ないから何だかんだではなくて、どうやってそういった歴史的な近代の遺産を生かしていくかということ、もっと生かして考えようじゃないかと。こういったいろんなものをミックスしながら、この会津地方の盛り上げを図りたいと思っています。

そしてまた、この白河では、今日、今ここにあるとおり、本当にここも古い町で、何ととっても松平定信公の伝統ある城下町でありますし、ここは非常に新幹線もあって近いわけですから、もっといろんな意味での、埋もれている、そういったものを発掘して、それにまたおいしい食べ物もいっぱいあるわけですから、是非そういったものを組み合わせて、一体となって北関東と言いますか、あるいはこの会津も含めた一体的ないろんな盛り上げ、これはもちろん那須高原も近いわけですから、グッとこう盛り上げていくようなことを考えてもらっていいんじゃないかなと思っています。

そして、いつも言うんですが、福島あるいはこの地域含めて、東京という大マーケット、そして１，４００万人もいる、そのすぐそばにあるわけですから、ちょっと盛り上がるともう大ブレイクしますから、そういったポテンシャルを秘めている地域だということをしっかり認識してもらって、あとはそこをどうやってこっちに、この大河の流れをつくっていくかということが、これからの皆さん方の腕の見せどころじゃないかなと。

我々も、皆さん方がそういういろんな意欲に燃えてやられていることについては、しっかりまたサポートをしていきたいというふうに思ったところであります。

以上です。

２．質疑応答

（問）今、お話にあった、その東武鉄道のお話の件なんですけれども、

お話になるというのは、具体的などういったイメージを大臣はされているのか。

(答) まだ詳しくは勉強していませんが、結局、浅草から特急がくるということでありませうけれども、結局、どういう列車を走らせるかによって、接続が不安があるわけだね、この会津鉄道は。そうでしょう、こっちの方は。それだと直通で会津若松まで来られないから、その辺を何かうまい方法はないかなと。

例えば、ディーゼルと電車とうまくミックスしたハイブリッド的な車両を開発すれば、それは不可能じゃないわけですよ。トロリー線を引いてやるとなるとなかなか大変だけれども。

それは、例えば私の地元のＪＲ九州なんかでも、あの「ななつ星」なんていうのはディーゼル機関車なんですよ。ディーゼル機関車だったら、そういう電化区間じゃなくてもどんどん入っていけるし、それからディーゼルカーをきれいにおめかしをして、スイーツ列車を造ったり、いろんなリゾート列車をつくっていますから、是非そういうＪＲ九州がやっているようなことを参考にいただければ、かなりの機動性のある列車の運行もできるんじゃないかなという気がします。

(問) 東武鉄道とＪＲ東日本とも話すということ。

(答) だから、ちょっと一緒にやって、相談して、うまくやってみてよということですよ。

(問) 大臣の方から促すというような形ですか。

(答) ちょっと話をしてみます。特に只見線は三セクにして、これもＪＲ東も協力するとなりましたから、どうせならこういったことも総合的に、単なるその線区だけでなく、こういった例えば日光を通してこっちへ来るといふ、その何割かでも来ればすごい人が来るわけでしょう。さっき聞いたら、日光だけでも年間１，４００万人とか言っていたかな。その１割でも来たら１００万超すわけだから、そういうところを少しアタックしてみてもどうかないという気がします。

(問) 只見線に関してなんですけれども、復興の部分としてできることというのは、大臣としての考えているものはどんなことがあるのかなというの。

(答) 私は、バス路線にするとか言っていたけれども、そんなことじゃなくて、とにかく鉄道を残せということを書いてきたつもりなんです。やっぱりああいうところに、さっき言ったように歴史的にいろいろ苦勞してつくられた線路だし、ある意味では今どきああいうところに鉄道を引くような人はいませんから、それを逆手にとって、せっかくそうやってあるんだから、さっき言ったように単なる輸送機関で、利便性だ何ただけではなくて、そこをも

う少し視点を変えて、そういった歴史的な観点から、あるいは観光といいますか、そういったことからすると非常に面白い取組ができるんじゃないかなということで、ただ人とか物を運ぶだけのことじゃなくて、さっきのＪＲ九州でやっているような、いろんなリゾート列車的な要素で考えたらどうかなというふうに思います。

（問）福島は震災から復興の中で、農作物は特に風評被害があるということで注目されているんですけども、観光とか商工業について大臣が何か考えているプランといいますか、施策があればちょっとお話ししていただきたいんですが。

（答）これも、会津若松でもそういう話が出まして、どうしても、例えば、被災地でも福島は非常に東西に広いし、いろいろ被災の現実の影響というのは濃淡があるわけでしょう。ところが一般論でいうと、もう福島で一体となって何かイメージがあるもんだから、その辺のところはもうちょっと、そうじゃないよというようなことも含めて、もっともっと観光の宣伝と言いますか、ＰＲと言いますか、そういったことをもっとやらんといかんのではないかなということをつくづく感じますね。

今日も行ったら、まだやっぱり震災の影響がまだ残っているという話をやっぱり聞きましたから、そんなもんかなと思って、これはもっと大丈夫ですよと、もっと来てくださいということでアピールをすると。

今年度から東北の観光復興スタート、東北観光復興元年ということでやっていますから、今年の４月には東北観光推進機構も法人化して、正にこの辺が一体として、いろんな観光開発、あるいは振興に取り組めますから、そういう中でしっかりとこの福島の観光についても、もっともっと宣伝と言いますか、やるということが必要だと思います。

（以　　上）